

ランピースキン病

ランピースキン病とは

届出伝染病 WOAH通報対象疾病

病原体

ランピースキン病ウイルス（ポックスウイルス科カプリポックス属）

宿主

牛、水牛（※人への感染はない）

症状

皮膚の結節や水腫、発熱、抑うつ、リンパ節の肥大、粘膜の結節、鼻や目の出血、乳汁の減少、脚の腫れ、跛行など。泌乳ピーク期の乳牛や子牛で症状が重い、生産性低下・経済的被害大、死亡率1～5%。

伝播方法

- ・ベクター（蚊、ハエ、ダニなど）によって機械的に伝播。
- ・汚染された飼料、水、器具を介して感染。（肉による伝播リスクは無視できる）

予防と制御

海外では主に感染地域の牛の移動制限、症状のある牛のとう汰、及びワクチン接種が行われている。

（参考）ワクチンは日本では未承認。



出展：WOAHウェブサイト (<https://www.woah.org/en/disease/lumpy-skin-disease/>)

FAOウェブサイト (http://www.fao.org/fileadmin/user_upload/eufmd/LSD/LSD-002_text_NO_logos_2_.pdf)